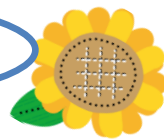


東日本大震災

名古屋って、あったかくて、いいまちだなあ。

寄り添い、ゆっくりと、でも全力で応援します。



被災者支援ボランティアセンターなごやお知らせ

令和2年8月25日発行 (第123号)

本お知らせは、名古屋市に避難されてきた方に役立つ情報をお伝えするため、毎月25日に発行しています。みなさんのご意見・ご感想をお待ちしています。

発行：東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや
〒462-8558 名古屋市北区清水4-17-1 5階
名古屋市社会福祉協議会 ボランティアセンター内
電話：070-5587-7153(平日9~17時)
FAX：052-917-0702
Eメール shien-vc@nagoya-shakyo.or.jp



市内の小中学校は、お盆明けに夏休みが終わり、もう通学が始まった頃かと思います。今年の夏は短かったですね。ただ、短くても威力は半端なく、名古屋市では11日の猛暑日、37日の真夏日、20日の熱帯夜(8/20現在)が見られています。コロナ同様、名古屋では暑さとともに暮らす必要があります。コロナ対策同様、熱中症対策も忘れずに、この猛暑を過ごしましょう!

日本の花火

花火と言えば、日本の夏の風物詩です。美しい打ち上げ花火が見られる花火大会は、今年は軒並み中止で、寂しい限りですね。。。

花火そのものの歴史は古く、中国で生まれ、中世ヨーロッパで発展したなどの記録があります。また、日本では、鉄砲伝来をきっかけに火薬が普及し、江戸時代には、現代の打ち上げ花火とほとんど同じ文化が見られたようです。

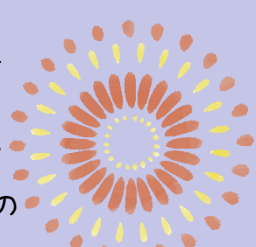
また、花火大会には、美しいだけでなく、鎮魂を目的としているものも少なくありません。例えば、墨田川花火大会が始まったのは、江戸時代に大飢饉と疫病の流行で亡くなった方の鎮魂のためと言われています。他にも、熊野大花火大会(三重県)や長岡まつり大花火大会(新潟県)などが有名です。

そんな花火大会が見られないのは残念なことですが、花火には、打ち上げ花火の他にも色々あります。手持ち花火で昔から親しまれているのは、線香花火ですが、現在は国内の製作所は3軒しか残っていない、東西で花火が違う、4段階の火花の変化がある、など調べると知らないことがたくさんありました。

米作りが盛んでワラが豊富にあった関西地方を中心に親しまれてきたのがワラスポ(藁の柄)先に火薬を付けた「スポ手」で、花火の先を斜め上に向けて火をつけるそうです。一方、米作りが少なく紙すきが盛んだ関東では、ワラの代用品として紙で火薬を包んで作る「長手」が親しまれ、その後、これが全国に広がって行ったそうです。

また、線香花火の4段階の火花の変化としては、「蕾」→「牡丹」→「松葉」→「散り菊」や、「牡丹」→「松葉」→「柳」→「散り菊」などと呼ばれ、繊細な美しさが見られます。

夏の終わりに、静かに線香花火の美しい火を見つめ、思いをはせるのはどうでしょう?



被災者支援ボランティアセンターまで事前にお申し込みください。

「革工芸の会」

革細工(レザークラフト)をボランティアさんに教えてもらいながら行きます
日時:令和2年9月1日・15日 両日とも 火曜日 10時15分~12時
会場:名古屋市総合福祉会館6階 録音編集室
(北区清水四丁目17-1 北区役所内)
持ち物:はさみ(よく切れるもの)、あればラジオペンチ
材料費:1回500円~(実費相当)



寺子屋 NIT!

3月をもって、休止することになりました。再開する時は、またご案内します。